▶花火を見る子ども

立仏で夜祭り
花火大会開く

立仏ＰＴＡでは、昨年の海水浴にかわって、八月二日花火大会を実施、小学校グラウンドには二百人の親子が参加して、真夏の夜の一日を思う存分楽しんでいました。

当日は、二百人もの親子が同小学校グラウンドに集まり、それぞれ学年にあった花火セットを受け取ると、さっそく思い思いの花火を取り出し楽しんでいました。また、アスレチック広場には、大人用の大きな花火も用意された大人用の大きな花火も用意され二百発ものいろいろな花火が、夜空に映え、大人もしばらくは年を忘れて打ち興じていました。

また、アスレチック広場には、「肝だめし」などもも行われ、ロープをたよりに終点まで行くのですが、途中、竹やぶなどの障害が待ち受け、首すじに「コンニャク」をあてられたりして、低学年の中には泣き出す子も出るなど、会場は子供たちの騒ぎ声でいっぱいでした。

この大会はＰＴＡと子供たちの汗の結晶で、廃品回収を行った収益金を基に、花火セットを買ったりして経費節減に大きな成果をおさめたようです。

初めての試みで行われた「花火大会」は、時のたつのも忘れ、九時過ぎまでにぎやかに繰り広げられました。

木場大演芸会
獅子舞で幕明け

木場部落では、郷土芸能保存会結成十周年を記念して、八月二日大演芸会を、同小学校体育館で行い、熱い館内は終日、手拍子や笑い声でにぎわっていました。

当日は午後一時から、主催者、各来賓のあいさつに続いて、幕明けは、もうすでに数百年も伝承されてきた獅子舞で始まり、二十種目もの踊りや歌などが披露。出演者も観客も汗びっしょりになって、大演芸会を盛り上げていました。

また、この日特別に同小学校トランペット鼓隊や宗瀬宗行＆ブルースターズの演奏が華を添え、夏の熱い一日を楽しく過していました。

▶熱演の黒田節

町大会

第一回壮年野球大会
山田ドラゴンが優勝
接戦の末

壮年の体力の向上と親睦を目的に開かれた、第一回壮年野球大会は、八月二日、決勝戦が行われ、接戦の末、山田ドラゴンが寺地団地を7対5で下し、初優勝をかざりました。

交通安全県宣言十九周年記念県民大会

●作文で　三浦美香さん（大野小三年）
●ポスターで　河井佳子さん（立仏小五年）が最優秀賞

交通安全県宣言十九周年記念の作文で大野小学校三年の三浦美香さんが最優秀賞を受賞。また、ポスターでも立仏小学校五年の河井佳子さんが最優秀賞を、大野小一年の白井伸吾君が佳作に入選と、それぞれすばらしい成績をおさめました。

表彰式は、七月二十四日㈮に県民会館で行われ、三浦美香さんと河井佳子さんの二人ともお母さんと一緒に出席。君健男県知事から表彰状とトロフィーを受けとりました。

なお、河井さんのポスターは次号で紹介します。

車さん、うんてんしゅさん
ありがとう

三浦美香

わたしの大野小学校では、しゅうだんとうこうをしています。しゅうだんとうこうというのは、交通に注意して町内の一年から六年までの人たちと、いっしょに学校へ来ることです。わたしたちは、おうだんほどうの所で黄色いはたを上げて車が止まってくれるのを待っています。「やっと車が止まった」と心の中で思うと、通学はんのはん長が、「わたっていいよ。」と言います。わたしは左右よくみてわたります。はん長が頭をさげておじぎをすると、みんなも「ありがとう。」という気持ちをこめておじぎします。車の中の人もにこにこしてわらっています。車の顔も何だかわらってるみたいです。ライトが目で、バンパーが口です。大きな大きなトラックも止まって、わらいながら子どもたちが歩くのを見ています。朝にこんなことがあると、一日中とっても気もちがいいものです。人と車は目やたいどで、お話することができるんですね。

「青だよ。はやくわたりなさい。」とか「お先にどうぞ。」とか、声に出さなくてもわかります。車どうしでも道をあけてあげたりすると、プーと音を出してありがとうというおじぎをします。少し、あったかい気持ちになります。

ぜんぶの車がこんなだったら、交通じこはなくなると思います。お話するのがきらいでスピードを出す車がなくなれば、おとしよりや目のふじゅうな人もあんしんして歩けるのになぁと思います。

でも、車の人だけ注意しても歩く人が注意をしなかったら交通じこは、なくなりません。信号をよく見て、手を上げて左右たしかめてからどうろをわたるようにしています。友だちの家に遊びに行く時は、心がうきうきして、あまり車に注意しなくなります。とってもあぶないことなので、遊びに行く時はいつもより気をひきしめて歩いたり、自てん車に乗ったりするように自分じしんに注意しています。このまえ交通ルールのことを家ぞくみんなで話し合いました。ルールはみんなが安全に気持ちよくくらすためにあるもので、一人でも守らない人がいると、今よりも交通じこがふえて死んだりけがをしたりする人が多くなり大変なことになると、お母さんが教えてくれました。町のひょうしきやしんごうもみんなをまもってくれる命の恩人です。「とび出しはしないでね。とか「ななめおうだんしないでね。」とか、晴れの日も風や雨の日もわたしたちに教えてくれます。本当にごくろうさま。いつもありがとう。

わたしは、これからも毎日、みんなといっしょに集だんとうこうをします。交通ルールをまもって元気よく「おはよう。」と、車やうんてんしゅさんにあいさつしたいと思います。やさしい気持ちと、ありがとうという気持ちのあいさつです。日本じゅうの人と車に、心のあいさつがしたいです。

◀国道8号線を渡る子供たち